

第一回館山市議定会定例会會議錄（第三号）

一、昭和五十八年三月十四日（月曜日）午前十時

二、館山市役所議場

出席議員 二十四名

| | |
|-----------|------------|
| 一番 神田 守隆 | 二番 石井 謀 |
| 四番 横溝 功 | 五番 福原 勤 |
| 七番 古賀 礼四郎 | 八番 石井 昌治 |
| 九番 松下 正己 | 一番 林 豊 |
| 一二番 栗原 一雄 | 一三番 近藤 好雄 |
| 一四番 渡辺 昭夫 | 一五番 伊藤 幸太郎 |
| 一七番 黒川 平治 | 一八番 流山 源次郎 |
| 二〇番 石井 武敏 | 二一番 吉田 勇治郎 |
| 二二番 藤田 益治 | 二三番 菊井 敏博 |
| 二四番 和田 一郎 | 二五番 五十嵐 昇 |
| 二六番 伊賀 多朗 | 二八番 安澤 徳順 |
| 二九番 安西 益男 | 三〇番 山口 康 |

欠席議員 二名

| | |
|-----------|----------|
| 一九番 石井 輝久 | 二七番 石井 正 |
|-----------|----------|

出席説明員

第一号から監査委員、監査事務局長、農業委員会会長、農業委員会事務局長を除く。

出席事務局職員

第一号に同じ

議事日程（第三号）

昭和五十八年三月十四日午前十時開議

議案第十一号 館山市職員給与条例の一部を改正す

日程第一

議案第十二号 館山市立幼稚園設置条例の一部を改正する条例の制定について

議案第十三号 館山市、富浦町及び三芳村学校給食組合規約の一部を改正する規約の制定に関する協議について

議案第十四号 障害に関する用語の改善に伴う関係条例の整理に関する条例の制定について

館山市道路占用料徴収条例等の一部を改正する条例の制定について

議案第十五号 館山市道路線の廃止について

議案第十六号 市道路線の認定について

議案第十七号 館山市国民宿舎利用料徴収条例の一部を改正する条例の制定について

議案第十八号 昭和五十七年度館山市一般会計補正予算（第四号）

議案第十九号 昭和五十七年度館山市国民健康保険特別会計補正予算（第二号）

議案第二十号 昭和五十七年度館山市と畜場特別会計補正予算（第一号）

議案第二十一号 昭和五十七年度館山市水道事業特別会計補正予算（第三号）

議案第二十二号 昭和五十七年度館山市国民宿舎事業特別会計補正予算（第二号）

議案第二十三号

議案第二十四号

議案第二十五号

議案第二十六号

議案第二十七号

議案第二十八号

議案第二十九号

議案第三十号

日程第三 請願第一号

米空母ミッドウェー艦載機の訓練基地化に反対する意見書の提出を求める請願書

開 議 午前十時二分開議

○議長（林 豊君） 本日の出席議員数二十二名、これより第一回市議会定例会第三日の会議を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

議 案 の 上 程

○議長（林 豊君） 日程第一、議案第十一号乃至議案第十八号の各議案を一括して議題といたします。

質 疑 応 答

○議長（林 豊君） これより質疑に入ります。通告がありますので発言を許します。

二〇番議員石井武敏君。御登壇願います。

（二〇番議員石井武敏君登壇）

○二〇番（石井武敏君） 私は、議案の十一号、十五号、十八号に關しまして通告をさせていただきますので御質問申し上げます。

第一点の議案第十一号でございますが、これは職員の給与条例の改正でございます。この改正につきましては、職員の特別に健康に對しての、不健康な業務に携わるとか、あるいは不快な業務に携わるとか、あるいは危険な業務に携わるとか、主にこの三種

類の特別な業務に携わる職員に對して特別にこれを支給していいというものであり、その支給額の改正が今回の条例であるというように理解しておりますが、私は基本的にはこうした不健康、不快感、そして危険度の高い職員に對してはそれぞれ相應の手段が必要であり、またその手当の額も全国的に、あるいは全県内的に他市と比較してやはり同じようなレベルで、いわゆる社会の動向と合っていくような上げ方がふさわしいと思います。基本的には賛成でございます。

しかし、いささか説明を加えていただきたいと思います。御質問申し上げるわけでございます。

まず、今回の条例の改正の内容が県下の他市との水準の比較に關しましてどのようになっているかと。他市と比較してどのようなレベルに当市はなっているかという、そのへんを理解しておきたいと思ひますので、まずその点を御質問するわけであります。

また、この支給の対象の範囲におきましても、さまざまなお方々や考え方があり、各地方自治体におきましてもおのおの差があると思ひます。そこで、この支給対象の範囲について、今回の改正におきましてどのような配慮のなされた改正であるかという点を理解しておきたいと思ひますので、説明を加えていただきたいと思います。

たとえば、こういうことであります。まだ対象になっていないものであるけれども、将来こうしたものは考慮した方がいいのではないかというようなものが今回の改正に載った種類のほかにあるのではないかというふうにも考えられますので、そのへんを明らかにしていただきたいというふうに思ひます。

続きまして、議案の第十五号でございますが、十五号の中で特に都市公園の使用料についてお尋ねをするものでございます。

特に、この中で都市公園を業として使用する場合についてでございます。公園というものは御承知のように公共的なものでありますし、その使用に関しても使用する側の公平性がなければならぬであろうというふうに考えます。そこで、お尋ねをするのであります。一日というようにこの使用料の規定の中に——一日の使用料というように限られておりますが、一日というのはこれは何時から何時までというようになっておりますか。時間の制限を示していただきたいと思ひます。

それから、行商、出店の場合の制限について、こういう場合は出してはいけないというさまざまな制約や制限が当然あると思ひます。その制限についてももう少し明らかにしていただきたい、御説明をお願いしたいというように思ひます。

続きまして、第十八号でございますが、これは議案の中の説明に示されておりますように、週末料金の設定や素泊料金の設定でありますし、また料金の内容を見ますといずれもが上昇をしているということがあります。当然、この上昇に関係しまして客数の目減り等が多少考えられるのではないかとこのように思ひます。そこで、この客数の目減りに関しましてどのように判断をしておりますか、お尋ねをするものでございます。

以上、御質問いたします。御答弁によりましてまた再質問いたしますが、よろしくお願ひいたします。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 石井武敏議員の御質問にお答えをいたします。

す。

議案第十一号でございますが、特殊勤務手当の改正にあたって県下各市の水準と比較して具体的にどうかという御質問でございますが、支給現行額は四十七年から五十二年にかけ一部改正しておりますが、しかし県下各市の水準と比較しますと総体的に五〇％程度低い額となっております。したがって、今回改正しようとする額は、手当の種類ごとに比較して低位にあるものを県下各市の水準並みに引き上げようとするものでございます。

次に、支給対象となる種類と範囲についてでございますが、今回支給額と合わせて職務の特殊性について考慮し、夜間緊急出動手当、道路上における危険作業従事手当の追加をお願いするわけでございます。

また、将来対象となるケースが生ずる場合は、そのつど検討してまいりたいと考えております。

次に、議案第十五号に関する御質問でございますが、一日とあるのは何時から何時までかという御質問でございますけれども、午前零時から午後十二時までの間を言っております。

次に、行商、出店の際の制限はどのようなものがあるかという御質問でございますが、公園面積が十分でございませぬので、常設を目的とした個人の出店に貸与することは無理でございますが、その他については次のような制限があります。第一、行商、出店を希望する場合には事前に市長の許可を受けなければならない、第二、公園利用者に著しい支障を及ぼしてはならない、第三、公園管理上必要な範囲で条件を定められたとき、これを守らなければならない、第四、売場またはその出入口を公園の外周に接して

はならない、第五、売店を設置できるのは二ヘクタール以上の都市公園であること、第六、軽飲食店は十ヘクタール以上の都市公園であること、以上がその主なものでございます。

議案第十八号国民宿舎利用料徴収条例に関する御質問でございますが、鳩山荘の再オープン以来の利用状況を申し上げますと、宿泊利用客は五十五年度一万八千九百四十二人、推定利用率四三・七％、五十六年度は二万三千百三十一人、利用率四四・九％でございます。五十七年度は、現時点の推定で二万四千四百人、利用率四七・四％と着実に増加しております。五十八年度の利用見込みにつきましては、多少伸び率は鈍化するものであろうと思われませんが、なお利用率四八％程度は見込めるものと判断し、宿泊利用客二万五千人を予定しております。

今回の改正につきましては、県内各宿舎と協議の上、環境庁から通知のございました標準利用率を週末等利用料とし、平日利用の促進を図るため、それより低い料金での平日利用料を設定したものでございます。

また、素泊利用料につきましては、収益確保の考えから、県内各宿舎協議の上、民間の料金体系に準じて設定したものでございますが、当鳩山荘におきましては、年間の利用は微々たる人数でございます。

以上、答弁を終わります。

○二〇番（石井武敏君） ただいま御答弁いただきましたが、おおむね了解いたしました。何点かもう少し明らかにしていただきたい部分がありますので御質問します。

まず、特殊勤務手当でございますが、今回一項目から二十種類

ですか、の特殊勤務手当が改正されようとしておりまして、先ほど私も申し上げましたように、この二十種類の業務はそれぞれ危険業務、あるいは不快業務、あるいは不健康業務ということであろうかと、それに分類されるであろう、おのおのその三種類の業務に属するであろうと思われ。ただいまの御答弁でいきますと、その改定は県下の水準よりいままでも低かったのでそれを水準に合わせて高めたというように御説明がありました。

まず、その水準の内容であります。この特殊勤務手当と称する種類、これは何種類ぐらいあるのでしょうか。平均的に見て、県下の水準という中においてその対象の種類――現在ここにあるのは、二十種類まで当市としてはありますが、これが何種類あるか御説明賜りたいと思います。

それと三ページでございますが、これは十二種類、十三種類におきまして、十二種類のほうは電気業務従事手当、これが電気主任技術者としては一カ月二千円が三千円に改定、そして臨時に従事した職員は一日百円から二百円に改定、これでほぼ一カ月働らく日数を二十五日と考えますと、現行でいきますと電気技術者は二千円で臨時職員は二十五日とすると二千五百円ということになります。これは五百円の開きがあつて臨時の方が幾分料金的に高くなるというのはこれはうなづけます。しかし、それが改定になりますと、その技術者と臨時との差がますます開いてくるというように感じを受けるんですが、といいますのは、技術者は二千円から三千円で臨時は百円から二百円ですから、それが二十五日の勤務だと仮定いたしますと、月額が主任者が三千円、臨時が五千円、これで二千円の開きが出てくるわけです。こうしたように、

いままで五百円の開きが今度は二千円の開きになるというように幅が大きいんじゃないかと思いますが、そのへんは矛盾しませんでしょうか、どうでしょうか。もう少し説明を加えていただきたいというように思います。

それから、十五号の方は、これは了承いたしました。

なお、十八号の方でございしますが、この料金の改定は、いわゆる御説明によりますと、環境庁の方から指示がありまして、そしてこの料金改定に取り組んだような御答弁がありました。環境庁の方では素泊料金とそれから宿泊料金、それと休憩料金、いままでの料金体系になかったものを枠を広げたわけですが、こうした枠の広げ方を環境庁が指示したのだというように考えてよろしゅうございましょうか。

それと、今回の環境庁から指示があつてこのような体系になつたとすれば、おそらく館山市と類似をした、海があり、緑があり、空気がきれいな、魚が食べられる、類似した地域の宿舎があると思いますが、こうした宿舎も同じような体系になつていつていいのかどうか。そうした当市だけでなく他市との関連性をもう少し説明を加えていただきたいというように思います。

以上でございします。

○総務部長（鶴岡卓樹君） 特殊勤務手当について御答弁申し上げます。

県下の平均的な種類はどのくらいかとお尋ねでございしますが、大体県下ですと私の方と同じ二十前後の種類として確認しております。

それと、電気業務従事手当、ボイラ業務従事手当のお話ござい

ましたのでお答え申し上げますと、この臨時の扱い方は、当市職員が応援体制をとる、そういう場合の特殊勤務手当の考え方でございますまして、応援をとる場合は一カ月の応援をとる——現実の問題としてそういう状態の想定ではなくて、たまたま、応援といひますと数日の前提の手当でございします。ですから、一回計算しますとその差があるかという、その見方はございしますが、実態論としましては応援体制であるということになりますと、三千円は実態としては超えてはいません。そういう支給になるかと思ひます。

以上です。

○経済部長（山田俊康君） 国民宿舎宿泊料の関係でございしますが、最初に環境庁から素泊料金等についても指示があつたかどうかというところでございしますけれども、今回の改正は——従前は使用料基準を環境庁から示されまして、最高限度額というような認識のもとに運営されておりました。今回は、それが利用料標準ということで環境庁から示されまして、示された文書の中にも、立地条件や施設の内容等によりそれぞれ経営格差等があるんだ、そういったことから一応標準を定める、合理的な運営をするように、この標準によって経営の安定、サービスの向上を図っていけということとでございします。そして、今回の改正により設置者が自主的に料金設定を行えるのは、素泊料金の設定、幼児料金の設定、特別料金——バス付、バス、トイレ付、あるいは洗面所付等の料金の設定、小学校児童の休憩料の設定、予約金の設定、配膳手数料の加算等については独自にという指示でございします。

今回のこれらの指示によりまして、市長から御説明申し上げますように、県下十六の国民宿舎がございします。その国民宿舎と

協議いたしました結果、このようになったわけです。県内他市との関連性ということで申し上げますと、千葉県内の宿舎は館山と同じ料金設定ということで合意を見まして、現在同じ料金で条例改正作業中でございます。利用者がそれぞれとまどいを起こしてはいけないんではないかというようなことから、千葉県内は一斉に同じ料金ということでございます。

なお、情報として得ておりますものを申し上げますと、山梨県に四つございます。やはりこれは四千八百円——平日の料金の方がなくて上限に張りついたままということ——山梨県、栃木県に三つ、群馬県に七つございますけれども、これらは上限に張りついています、一番高い方の料金でございます。それから長野県にありましては四千五百円から四千八百円、差が設けられておりますのは施設状況によってということですが、それから新潟県にありましては県営施設は四千八百円、上限に張りついております。市町村営で施設が非常に完備しているものは四千八百円、その他のものは四千五百円までの間で市町村が決めるというような状況下でございます。

以上です。

○二〇番（石井武敏君） 十八号に關しましては了承いたします。

それから、十一号でございますが、先ほどの御説明では二十種類の種別でございますが、これが県下の水準のようでございます。御説明によりますと、多くの種類を特殊勤務手当として出している地方自治体では最高どのくらいの種類まで分けてやっているか御説明願いたいと思います。基本的に私はこの議案については賛成でございます。以上で終わりますが、一点だけ御説明願います。

○総務部長（鶴岡卓樹君） 各市の全データは手元にございませんが、たとえば地方公共団体としまして県の場合、見てみますと、県の場合は若干多くて三十程度の種類になっております。

○議長（林 豊君） 以上で二〇番議員君の質疑を終わります。

次、一番議員神田守隆君。御登壇願います。

（一番議員神田守隆君登壇）

○一番（神田守隆君） 通告いたしました諸点についてお尋ねをいたします。

議案のまず第十一号館山市職員給与条例の一部を改正する条例の制定についてであります。いまの石井議員の質疑と全く同じ部分もありますので、県下各市との平均水準との比較、ただいまの答弁の中で総体的に見て五〇％というようなお話がございましたので、この点については答弁は求めません。

この全般的見直しというようなことが今回行われたわけですが、前回はこの全般的見直し、こうしたものは何年に行っているのか、この点についてお聞かせを願いたいと思います。

議案の第十二号館山市立幼稚園設置条例の一部を改正する条例の制定についてであります。西岬幼稚園の位置を変更するものであります。通園についての配慮がどのようになされているのかどうか。特に、小さな子供たちのことなので、幼稚園の側からの配慮が重要だと思っておりますが、この点についてどのような御説明を願いたいと思います。

議案の第十五号館山市道路占用料徴収条例の一部を改正する条例の制定についてであります。まず議案説明の一三ページに道路占用料徴収条例ということで別表が掲示されてありますが、この

一覧表は国、県に準ずるとしてありますが、全く同一のものなのかどうか。

次に、道路占用料徴収条例にある、徴収を免除するという問題があるわけですが、これに関連いたしまして、具体的な適用についてお聞かせを願いたいと思うわけがあります。聞くところによりますと、同じ電柱類でも、東京電力の電柱は占用料を徴収されるけれども、電電公社の電柱やあるいは電話ボックスなどは全くただである、占用料の徴収がされていないというようなことを聞いておるわけがありますが、このことは事実なのかどうか。

次に、街灯類についてであります。町内会あるいは商店会、交通安全協会など、さまざまなケースで街灯を建てる場合があると思いますが、いずれも公共の利益に非常に関連するものと思われれます。現在、具体的に徴収は免除となっているのかどうかお聞かせを願いたいと思います。

次に、地下の埋設物類についてありますが、家庭の雑排水を道路側溝に流すケースは非常に多いことと思います。ところで、道路側溝がないために市道にパイプを通して流すというケースも多くあるわけがあります。こうしたケースも道路側溝に準じて占用料の徴収を免除しているというふうに伺っています。しかし、その場合でも、浄化槽を使っている家庭の場合は免除にならず、占用料が徴収されると伺っておりますが、それは事実なのかどうか。

この際、どういうケースは取るのか、どういうケースは取らないのか、その理由は何なのか、この線引きについて御説明を願いたいと思うわけがあります。

次に、議案の第十七号市道路線の変更についてありますが、議案説明の十七ページによりますと、西岬小学校の通学路を市道に認定しようとするものであるというふうに理解をいたします。学校統合は当然通学する子供たちに通学のための不便をもたらすものであります。この不便を解消するために通学問題は統合に際しての当然の前提であったかと思えます。前提であるべき通学路の整備が統合後一年にしてようやくこうして議題に載ってきたわけでありますが、本来は順序が逆であってしかるべきだろうと思えます。統合の是非はさておき、国鉄バスをもって小学生の通学の足とするのであったわけでありますが、そのために国鉄に路線の変更をお願いする、こういうことであります。この国鉄の路線の変更という問題はどのようなになったのか御説明をいただきたいと思います。

その際、地元住民との話し合いはどうなっているのか合わせてお答えを願いたいと思います。

さらに、現行の通学バスはどうするのか、国鉄バス運行によって廃止とするのかどうか。その点についてもお聞かせを願いたいと思います。

以上、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 神田議員の御質問にお答えをいたします。

議案第十一号、全般的見直しは前回はいつ行ったかという御質問でございますが、五十二年に行い、種類の新設及び支給額の一部改正を行っております。

次に、議案第十二号でございますが、四月早々から一部路線変

更をして西岬小学校及び幼稚園前を約二十七本の国鉄バスが運行することになり、通園時刻に合ったバスの運行をお願いし、そのように予定されております。

議案第十五号館山市道路占用料徴収条例に関する御質問でございますが、今回の道路占用料は国及び県の占用料と全く同一であります。千葉県は昭和五十七年三月に改正しましたので、館山市は一年遅れでございます。

次は、徴収を免除する場合でございますが、館山市道路占用料徴収条例第三条に規定してありますが、法第三十五条関係は、郵便その他国の行う事業、日本国有鉄道、日本専売公社、日本電信電話公社の行う事業で道路を占用するもので、具体的には電電公社の電柱、電話ボックス、郵政事業の郵便ポスト等が減免の対象であります。

街灯類につきましては、占用料を免除いたしております。第三条第三号に該当し、公共に利益となる事業と判断いたしました料金を徴収していません。

一般家庭の排水管等の埋設管については、現在占用料は徴収しておりますが、市道側溝の整備等の関係もございまして、現在占用料徴収について免除の方向で検討いたしております。

議案第十七号市道路線の認定に関する御質問でございますが、国鉄バスの路線変更については先ほど第十二号議案でお答えをいたしましたように、四月早々から一部路線変更をして、西岬小学校前を約二十七本の国鉄バスが運行することになりましたので、三月十一日、西岬小学校PTA及び幼稚園父母の会臨時総会を開き、国鉄バス館山営業所長をはじめ係員に出席いただき、バス時

刻表等についての説明会を開き、了承を得ました。

なお、三月二十八日、西岬地区コミュニティ委員会の説明会も予定をいたしております。

次に、通学バスはどうするかという御質問でございますが、当初から短期間を予定いたしました中古車を購入いたしましたので、路線バス変更に伴って廃車をしたいと考えております。

以上、答弁を終わります。

○一番（神田守隆君） 議案第十一号の職員給与条例の件ですが、特殊勤務手当についてであります。前回は五十二年というようなお話でありました。こうした見直しというのは各自治体それぞれ行っていると思うわけですが、五十二年というところと大分前のことになるわけで、この間他の自治体が見直しをしているのに対して、館山の見直しのテンポが少し遅れていたのではないかと気がするわけで、通常他の自治体は、私がいろいろ聞いてみるところでは、大体三年に一回ぐらいの見直しというようにことでやっているというふうにも伺っているわけですが、そうした一定の期限を切って見直しをしていくことも必要ではないかと思えますが、具体的に三年程度というようにすることで見直しをしていくことが必要ではないかと思えます。その点についてどのようにお考えなのかお聞かせを願いたいと思います。

それから、占用料の関係ですが、道路法に基づいて電電公社の電柱など、あるいは電話ボックスが徴収免除の対象になっておるといふような御説明でありましたが、道路法第三十五条ではこうした国の事業、あるいは国鉄、電電等の事業、これについては道路の占用にあたって協議をすれば足りるんだ、許可制ではないん

だということをうたっているのが道路法だと思ひます。道路法

の三十九条によりますと、その第二項では、占用料の徴収については国等の行う事業については政令で定める基準を超えてはならないというふうに言っているわけで、政令を超えない範囲内についてはその徴収をしてもよろしいんだというのが道路法の趣旨だと思ひます。ところが具体的に政令において基準を示していない。したがって、各自治体でその徴収が事実上できないところに問題があるかと思ひます。本来道路法の趣旨、法の趣旨というのは、地方自治体がそうした国なり電電なりの電柱から道路占用料を徴収してもいいんだというのが本来の法の趣旨だというふうに私は理解をしているんですけれども、先般全国的なそうした自治体関係の中でも、全国市長会だったか、ちょっと私忘れましてけれども、この問題について、地方財源をふやすという趣旨から、国はやはり法の趣旨に基づいて政令を一日も早く決めるべきであるというような意見も出されたように伺っております。この点についてやはり地方財源が大変苦しくなってきた折でもあり、金額は館山市で見ますとそれほど多くはないと思ひますけれども、やはりきちんと法の趣旨を生かすということが必要じゃないかと思ひます。こうしたことについての市長さんの考えにかにあるのかお聞かせを願ひたいと思ひます。

それから、地下埋設管については、免除の方向で検討を進めるといふことですので、ぜひそういうことで検討を進めていただきたい。

市道路線の変更について了承をいたします。

○総務部長（鶴岡卓樹君） 特殊勤務手当の見直しのお答えを申し

上げます。

他の自治体は見直しをして——三年に一回のお話もございましたが、実はルールというものはございませんが、できるだけ趣旨に沿いたい、そういうことを考えております。今後検討していく課題として取り上げております。

○市長（半澤良一君） 電電公社の電柱の占用料については、御指摘のように全国市長会の各支部からそういう問題が起こってきたことは事実でございますが、従来はたしか——私のはっきりした記憶はございませんけれども、建設省の次官か何か局長の通達のようなもので取らないことが妥当だという通達が出ておりました。それに従ってやってまいったように記憶しております。

しかし、いま全国市長会等を通じてこの問題検討しているようにございますので、その結果を待つて措置いたしたいというふうに考えております。

○一番（神田守隆君） 終わります。

○議長（林 豊君） 以上で一番議員君の質疑を終わります。

以上で通告者による質疑を終わりますが、通告をしない議員で御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。以上で質疑を終結いたします。

委員 会 付 託

○議長（林 豊君） ただいま議題となつております議案第十一号乃至議案第十八号の各議案は、お手元に配付してあります議案付託表のとおり、それぞれ所管の常任委員会に付託をいたします。

議 案 の 上 程

○議長（林 豊君） 日程第二、議案第十九号乃至議案第二十三号昭和五十七年度館山市一般会計及び特別会計補正予算を一括して議題といたします。

質 疑 応 答

○議長（林 豊君） これより質疑に入ります。
通告がありますので発言を許します。

二〇番議員石井武敏君。御登壇願います。

（二〇番議員石井武敏君登壇）

○二〇番（石井武敏君） 私は、すでに通告してございますので、通告の趣旨に従いまして御質問しますが、質問は議案説明資料によって御質問申し上げます。

説明資料の二五ページにあります。二款総務費の中にコミュニティ施設建設事業費の減額がうたっておりますが、コミュニティ施設建設につきましては当市としても大変大きな事業でございますし、市民の多くの関心を集めている事業内容でございます。どのような建物ができるか、どのような活用がされるのか、そのへんを市民はじっと見守っているわけでございますので、今回この補正に出てきております減額についていさしく説明を加えていただきたいというふうに考えます。

この減額の中には、工事費として建物の建設工事、あるいは施設用地防塵処理工事、あるいは水道管布設工事、そして委託料というようにおのおのが減額になっておりますので、それに関しまして御説明をお願いします。

次に、説明書の二六ページでございますが、四款衛生費の中に

医薬材料費があります。これも減額になっておりますが、この減額の理由について御説明を賜りたいと思います。

おそらく、この説明書を見る限り、予防接種人員の減によるものであるということが多分に明らかでございますが、この予防接種人員の予定の立て方につきまして御質問をするわけでありますけれども、この内容につきましてもすでに通告してありますので、まず第一点は、この予防接種人員の予定の立て方は前年実績か、第二点、年齢による分析はどうか、第三点、PRの効果や毎年工夫されている変化についてはどうか。いろいろこのように考え方があると思いますが、いさしく明らかにしていただきたいというふうに考えます。

次に、二七ページの館山市環境保全公社補助金についてであります。この内容も通告してありますが、この補助金に関連いたしまして、現在の従量制のくみ取りメーターの改良が叫ばれてからかなりの日数がたっているのではないか、その必要性をうたわれてからかなりの期間があったのではないかとというふうに考えますが、このメーターの改善、正確に見るメーター、正確に計れるメーターの改善について、現在どのようなになっているか明らかにしていただきたいと思います。

市民は、正確のものに対しては当然市民の義務としてそれに対するくみ取り料金は喜んで、当然の義務として払うと思います。しかし、不正確であるという観点に立ったとき、いろいろとトラブルが現場において起こりますので、このメーターの改良につきましてどのように検討をされているか、現況をお知らせ願いたいというふうに思います。

次に、三〇ページでございますが、七款の商工費の道路環境整備事業についてでございますが、これは当初予定されました植栽事業が半分しか行われなかったようにもこの説明資料からは見られますが、この減額の理由について明らかにしていただきたいと思ひます。

次に、三一ページ九款の消防費でございます。この中に消火栓の設置新設等負担金がありますが、おそらく消火栓は年間計画とか年度計画、あるいはいろいろな計画に基づいて逐次設置をしているように思ひます。その計画に基づいてこれが行われているように思ひますが、今回新設をされます市営水道と三芳水道に關係しまして、新設四基、修繕二基がありますが、これらの場所を明示していただきたいと思ひます。

次に、同じ三一ページの八款でございますが、都市計画街路整備事業につきまして、ここにも減額が出ておりますが、この減額の理由を示していただきたいと思ひます。

最後に、三三ページ最下欄の普通財産の購入費につきまして、もう少し具体的に説明をしてください。

以上、御質問いたします。御答弁によりまして再質問いたしますので、よろしく願ひいたします。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 石井武敏議員の御質問にお答えをいたします。

コミュニティ施設建設事業の減額でございますが、実施設計または入札等による残額でございます。

内容につきましては、建物建設工事費で予算額三億五千百三万

六千円に対し契約金額三億三千四百七十五千円、残額千六百八十六万一千円、防塵処理工事費で予算額五百三十万円に対し契約金額四百十八万七千円、残額百一十一万三千円、水道管布設等工事費で予算額四百七十万円に対し契約金額四百五十八万円、残額十二万円、建物設計監理委託料で予算額四百六十二万円に対し契約金額四百五十三万円、残額九万円、合計千八百十八万四千円の減額でございます。

次に、薬品購入費の減についてでございますが、予防接種には定期の予防接種と臨時の予防接種がございまして、定期に該当する三種混合等の予定人員につきましては、出生数と前年実績を考慮して積算いたします。インフルエンザ及び風疹等は希望する者のみ接種しますが、接種当日発熱等体の状態により接種不適となる場合もあり減少いたします。

なお、予防接種のPRについては、実施ごとに広報に掲載するとともに妊婦面接及び乳幼児相談の折に周知を図ります。

インフルエンザ及び風疹等の集団接種については、学校長及び施設長に申し込みの取りまとめを文書で依頼いたします。

次に、し尿収集車の計量に問題があるのではないかという御質問でございますが、現在の計量器ではリットル単位での読み取りは困難であるということから、従量制移行に際して十リットル刻みの目盛りに切りかえて読み取りやすくし、料金も十リットル単位で定めたわけであります。

現状として、計量についての問い合わせ等は若干ございますが、次回のくみ取りに立ち会ってもらうことにより納得していただいております。

しかし、目盛りを読み取るのは作業に従事する職員でありますので、今後とも正確を期するよう十分指導してまいりたいと思います。

次に、道路環境整備工事負担金の減についての御質問でございますが、県道南安房公園線美化のため、毎年度ツバキ、サザンカの植栽工事を県の事業主体で実施しておりますが、当初事業計画六百万円であったところ、事業量の変更により半額となりました。市は三分の一を負担いたしますので、百万円減額しようとするものであります。

次に、都市計画街路整備事業についてでございますが、減額するものは、当初予定いたしておりました土地百六十平方メートルが権利者の都合により購入ができなくなりましたので、その用地内の家屋等地上物件の物件調査費に不要を生じたものと、別件買取地のブロックべい及び庭木等の物件補償費に残を生じたものでございます。

消火栓新設等負担金についての御質問でございますが、御質問の消火栓の設置場所につきましては、市営水道の工事によりまして館山地区の楠見に二カ所、北条地区の八幡に一カ所、同じく北条地区の長須賀に一カ所の計四カ所を新設いたすものでございます。

また、修繕の場所につきましては、三芳水道企業団の工事でございますまして、船形地区の大塚一カ所、同じく船形地区堂の下町内の児童学園前一カ所の計二カ所の修繕でございます。

次に、普通財産取得費に関連しての御質問でございますが、これは旧富士ディーゼル株式会社所有地、館山市八幡七百六十七番

の一ほか四筆、合計面積千三十七・四平方メートルにつきまして、今後の都市計画事業、国道百二十七号バイパス事業などに要する公共用地を取得する際の代替用地として先行取得しようとするものでございます。

以上、答弁を終わります。

○二〇番（石井武敏君） コミュニティ施設建設事業につきまして御説明を受けたわけでございますが、この減額の理由は、実施設計と入札を経過したための残額であるという御説明であります。いわゆる当初組まれた概算額、事業の概算総額から実施設計及び入札を経た残金、ですから概算総額とこうした残額、実施設計と入札を経た残額、この金額の差というものは総額に対して何%の減額であったかという計算をされますが、コミュニティセンターと類似した、たとえば博物館とか、そうした類似した建物工事業がいろいろありますが、私はこうした残額のパーセントが総額に対してはなほだ違い過ぎるというのは好ましくないのではないかと、大体同じようなパーセントの落差ができていたのではなにかと思いますが、その落差につきましてはいまの説明で了承をいたします。

この説明書の中で、年度区分変更によるという説明がありますけれども、年度区分の変更によった減額、ここを少し説明していただきたいと思います。

それから、次に医薬材料費でございますが、これは学童に関する医療ということで行われているものでありますけれども、私の質問にしましては的確な御答弁で了承いたしますが、なお医薬材料費の購入にしまして御質問するわけであります。

たとえば、ここに使用されております三種混合ワクチンとかインフルエンザ、風疹に係ります薬品については定められた——たとえば、インフルエンザにはこういう薬品というように定められた薬品類があると思います。同じ薬品でもメーカーによっていろいろあると思いますので、この購入に際しまして薬品のメーカーの指定、これはどういうように——どの段階で指定をされておりますか、いさしく説明をしてください。

また、納入にあたりまして納入業者の選定、それぞれの市で示す資格、許可基準というものがあろうかと存じますが、この納入業者の選定や資格について、どのような選定や資格をしておりますか、御質問申し上げます。

それから、今回の補正で出てきておりますのは医薬材料費でございますまして、私は医薬材料費に関連をいたしまして御質問したいというものが二点ございます。これはすでに当局に通知はしてございますのでお答えを賜りたいと思います。

まず第一点は、ここにはインフルエンザ、風疹等、いわゆる予防関係の医療が出ておりますが、最近の学童、児童は非常に肥満児がふえているといわれております。これはデータの的にも明確に出てきておりますし、したがっていままでの成人病——一般にいう成人病が非常に低年齢化しているということがいえると思います。そこで、最近肥満児がふえたことによります心臓の異常、これが認められるんじゃないかと思いますが、この学童に關します精密な心臓検診の実施はできないかどうかというように私は考えるんですが、当局の対策方をひとつ御答弁いただきたいというふうに思います。

それからもう一点、これもすでに通知してございますので御質問申し上げますが、いわゆる学童のための歯科医の休日診療ができないか、診療制度が推進できないか、非常に現実にいまの学童は治療を要する人が非常にふえていると思います。おそらく治療をしなければならぬ虫歯を持っている人は学童の中で相当数を占めるというようにデータが出ています。しかしながら、現実に治療ができないのが現状でございますので、この点の歯医者さんの休日診療制度についてどのように考えますか御質問いたします。

次に、消火栓の設置についてでございますが、消火栓の場所は了承いたしました。

私は、こうした消火栓というのは一定の基準のある、たとえば形、機能というものが一定化していると思います。おそらく二十年前の消火栓とおそらくタイプも形も変わらないうではないかというように想像するんですが、私がここで御質問申し上げたいのは、関連質問といたしまして、もっと簡易な、簡単に操作のできる消火栓、口径の小さい、そして住民のだけれども簡単に操作できるような消火栓、こうしたものについて設置できないものかどうかということなんです。

といいますのは、火災が起きまして、消防が来て、実際に消火活動が行われるまでが問題でありまして、非常に手をこまねいて見ているのが現状ではないか。最近非常に早く出動するようになっておりますが、こうした住民による初期消火ができればもっともって被害が少なくて済むんじゃないかと考えますので、この消火栓につきましてもっと簡易な消火栓、だれでもが操作できる、

住民が簡単に使える、初期活動に役立つ消火栓というものが考えられないものかどうかというように考えますが、その点についてお答えをいただきたいというように思います。

以上です。

○市長公室長（斉藤武男君） 年度区分の関係でございますけれども、本事業については防衛、厚生、労働、三省からの補助金を受けまして、予算計上時点では全体工事のうち五十七年度は四二％、五十八年度には五八％というように分けまして予算計上いたしましたわけでございますが、最終的に防衛庁及び厚生省の補助金が五十七年度三〇％、五十八年度七〇％になりましたので、工事費につきましてもこれに対応することになったわけでございます。また労働省の補助金の勤労青少年ホームにつきましては、単年度事業としての取り扱いが行われまして、補助金も五十七年度で全額交付決定されましたので、これに対応して補助事業につきましても、勤労青少年ホーム分につきましては五十七、五十八年度分の工事費を合わせて五十七年に計上し、五十八年度分については繰り越しするということが労働省の了解もいただいております。したがって、これらの増減関係もございまして、最終的には五十七年度のコミュニティ施設建設事業で千八百十八万四千円の減額ということでございます。

以上でございます。

○民生部長（鈴木 力君） 予防接種に使用いたしますワクチン等の薬品の購入のことでございますが、薬品につきましては千葉県、血液研究所の製品を用いておるわけでございます。なお、ポリオワクチンにつきましては別途日本ポリオ製造株式会社の製品と

いうことで購入をいたしております。いずれも厚生省の国立の予防衛生研究所で実施いたします国家検定に合格した製品でございまして、この製品を使用しておるわけでございます。

それから、メーカーの選定でございますけれども、特に取り扱い業者といたしましては指定はございませんが、温度調整、あるいは品質管理、保存施設等の整備された業者を選ぶ、こういうことでございまして、館山市におきましては現在のところは富沢薬品、それから信陽堂薬品、この二社から購入しておる次第でございます。

次に、乳幼児に対する歯科の休日診療の制度でございますけれども、この制度につきましては現在全くないわけでございますが、開設以前の問題といたしまして歯科保健の教育、それから早期治療を周知させる必要があるわけでございますが、現在におきましても母親学級とかそういう機会におきましてもそれらの指導、教育をいたしておるわけでございます。歯科については平素やはり子供の虫歯の状況とかそういうものをすぐに察知いたしまして、虫歯があれば歯科に行つてとる、平素直しておく、こういうことが必要ではなからうかと思っております。いずれにいたしましてもこの問題を取り上げるにはやはり館山市だけでなく安房歯科医師会との協議、検討ということが必要ではなからうかと思っております。

次に、消火栓の設置の問題でございますが、水道の消火栓につきましては水道法二十四条によりまして、消火栓の設置基準というものが決まっておるわけでございますが、道路の交差点または分岐点、こういう消防活動の便利な場所に消火栓を設置するんだ

こういう規定がございまして、特に配水管の太さが百五十ミリ以上の沿線の箇所におきましては、建物の建っている状況等に応じまして、規定では百メートルないし二百メートルの間に設置するように基準がなされております。そのほか百五十ミリ未満の管にありましては配管が網の目のように環網状の布設がなされている十分な放水機能を有するところには消火栓を設置する、こういうようなことになっております。したがいまして、水道配水管の新設あるいはまた改良につきましては、この水道法の基準によりまして、それから消防団とも十分協議の上、設置することといたしております。

○教育長（安田豊作君） 過脂肪児の検査に関連、引き続き心臓の検査もしたらどうかというような御質問でございしますが、館山市は学童の肥満対策といえますか、過脂肪児という言葉を使っておりますけれども、医師会が日本医師会からの指定を受けたということで、安房医師会病院の全面的な協力と、なお千葉大の第二内科の協力を得て肥満児といえますか、過脂肪児の対策についていま実施しております。

これも、御指摘のように子供から成人病の傾向があらわれているという、その対策の一環として、いま対策をやっておる中で、それに関連して心臓もやはりそういうことで、心電図をとるということで、これは千葉県医療センターが取り上げるといいますか、特定対象事業として実施しておるようでございます。見ますと、小学生で約二二％、中学生で一％というような数が実施されております。

両方やるということもいいことかもしれませんけれども、もう

少し館山市としては過脂肪児の——計画を立てて、見通しが立つたところで——現在そういう関連で実施しておりますのは尿検査と過脂肪の対策。心電図をとるという検査の方法もありますけれども、もう少し様子を見てからにしたい、こう思っております以上。

○二〇番（石井武敏君） 御答弁いただきましておおむね了承しましたが、簡易消火栓につきましては今後検討をしていただきたいと思えます。

歯科の休日診療につきまして、安房歯科医師会との協議を進めていただきたいというように御要望申し上げます。

先ほどの答弁、私聞き漏らしたんでもう一度お聞きするんですが、植栽事業が当初の半分しか行われなかった理由につきまして、なぜ当初の計画の半分しか行われなかったのかということを開き漏らしましたので、もう一度お答えを願いたいと思います。

それから、館山市の環境保全公社の補助金につきまして、従量制のメーターにつきまして、かなりいろいろな検討をなさっているようにも思いますが、私たち非常にしろうとでございますけれども、現在読み取っているメーターが非常に一ミリとか五ミリですか、のものを読み取っているわけでございまして、正確な拡大レンズを使ってもある程度正確に読めるのではないかとというようにしろうと考えてございますが、よく読み取らなければレンズを付けなければならないのではないかというように簡単に考えるんですが、やはり何か対策を考えていくような方向をひとつ示していただきたいと思えます。

問題があれば、住民が立ち会っているとありますが、立ち会っ

ても目盛りが見えない者が、ただその場所にいるというだけで、別に正しさが確認できるというわけではございませんので、いままでの経過を少しく説明を加えてください。

○経済部長（山田俊康君） 南安房公園線の県営事業が当初計画では事業費全体で六百万円でありました。半額の三百万円になった理由ということでございますけれども、県の地元館山土木事務所としては、五十七年度は六百万円確保できるんだというようにことで連絡をいただいております。現実にはふたを開けてみたときにこのような結果であったということでございます。

なお、県といたしましては、市の負担なしで、県の単独事業で県道の環境整備というようにすることで、菜の花を沿道美化対策ということで植栽する等の事業は実施していることは事実ですけれども、市の負担をしながらやる事業は三百万円ということで予算決定が最終的になされたということでございます。

○民生部長（鈴木 力君） し尿くみ取りの計量用の計器の問題でございますが、これを改良できないかというお尋ねでございますけれども、この計器というのはやはり計量法による計器ではございませんので、全国共通したものを使用している、このように考えておるわけでございます。

最近におきましては、ある自治体におきまして——これはいろいろ問題があったようでございますが、この計量器を開発、改良できないかというようなことで、あるメーカーと共同でもって研究、開発をしたというのを聞いておたわけですけれども、その結果をいろいろ開発公社の方でも資料を取り寄せまして検討を試みていただいておりますが、やはり画期的な計量を、正確に読

み取るという、そういう実用的な改良というものはなされておらないわけでございます。そういう状況でございますので、これを直ちに改良しようということとはかなりむづかしいわけでございますので、現在の計量器というものをできるだけ正確に読み取るということを従業員に十分指導していきたい、このように考えておる次第でございます。

○議長（林 豊君） 以上で二〇番議員君の質疑を終わります。

次、一番議員神田守隆君。御登壇願います。

（一番議員神田守隆君登壇）

○一番（神田守隆君） 議案の第十九号昭和五十七年度館山市一般会計補正予算第四号及び議案第二十号昭和五十七年度館山市国民健康保険特別会計補正予算第二号についてそれぞれお尋ねいたします。

質問は議案書により行います。

まず、議案書の補正予算に関しての二ページありますが、歳入についてであります。地方交付税が計上されておらないわけがあります。本年度は特別交付税の交付はないのかどうか。あるならば交付額、交付時期、また補正に計上しない理由についてお聞かせをいただきたいと思っております。

次に、一七ページの寄附金についてであります。一般寄附金として千七万四千円が計上されておりますが、多額の寄附金であります。内容についての御説明をお願いしたいと思います。

次に、歳出に移るわけですが、補正の各款、各項に共通する問題として職員の給与の減額補正がなされておるわけですが、人事院の勧告が凍結されるという事態があるわけでご

ございます。この人事院勧告に基づき勧告の内容を実施するとすれば、本来支払われるはずであった、いわゆる現在凍結されている凍結分、これは館山市の場合幾らになるのかお聞かせください。

それから、この際関連をいたしまして、職員の給与について見るとき、いわゆる調整手当の問題があるかと思いますが、これまでさまざまな論議をされてきているわけでありましたが、現在の県内の支給状態はどうか、合わせてお聞かせを願いたいと思います。

二六ページ、生活保護費についてであります。不況と失業が増大する中で生活保護行政の重要性が昨今高まっていると思います。生活保護の減額の補正ではあります。現在生活保護受給人員の動向について、最近の人員の増減、また特に当市は高齢者の比率が高いというふうに考えるわけで、高齢者の割合についてはどのように把握をされているのか、合わせて御説明を願いたいと思います。

次に、二八ページ衛生費であります。館山市環境保全公社補助金として四千五百二十六万一千円計上されておりますが、これは保全公社の赤字の穴埋めに充てられるものと思うわけであります。保全公社の決算見込みについてどのようになるのかお聞かせを願いたいと思います。

また、くみ取り量につきまして、私の知る限りでは大変計量の問題について——先ほど石井議員の方から質疑がありましたが、市民の間に不満や不安を訴えてくるケースがあつたをたないわけであり。個々にチェックするには大変なことだと思ひます。先ほど来、質疑を伺つておりましたが、職員が正確を期して目盛りを読み取るというお話であるわけであり。もちろんその

ことは前提であらうかと思ひます。それで職員の読み取りが確かに正確なのかどうかという問題についてチェックしていくような体制というのとも考えなきやならぬのじゃなからうか、こういう点からひとつお聞かせを願ひたいんですが、車両によるくみ取りの、各家庭からの量の総額とくみ取つたバキュームカーから処理場に投入する量の総額、この総額との間にはどのくらいの誤差があるのか、あるいは誤差がないのか、そのへんについての御説明をお聞かせ願ひたいわけであり。ます。

次に、諸支出金についてであります。三九ページであります。土地開発基金に一億三千九百三十六万三千円の増額補正であり。ますが、基金の積み立て残高が幾らなのか、また現在土地の先行取得など具体的な目的があるのかどうかお聞かせを願ひたいと思ひ。んです。

それから、次に財政調整基金費ということ。九百三十七万八千円の減額の補正であります。これは歳入の基金運用利子相当分の減ということ。であります。基金運用利子の減つた理由は、基金の一般会計繰替運用による減と説明書にあります。市財政の資金繰りに大変苦勞したというふうにかがえるわけ。あります。なぜ繰替運用をせざるを得なかつたのか、その事情がどういふものであるのか御説明を願ひたいわけ。あります。

さらに、普通財産取得費として四千九百十四万円が計上され、八幡七百六十七の一ほかの代替用地ということ。取得するということ。あります。対象の土地については先ほど石井議員からの質疑もありましたのでおおむね了解をするわけ。あります。説明書により。ますと、ここに目的として「都市計画事業等」としてい

るわけであります。私は都市計画事業ということであるのならば、これは普通財産ではなくて明らかに行政財産ではなからうかというような考え方もするわけで、「都市計画事業等」としている「等」の意味、これをお聞かせ願いたいと思うわけであります。

次に、議案第二十号の国保会計の補正予算に移ります。

五四ページであります。国からの臨時財政調整交付金が三千二百五十一万ということで減額となっておりますが、その減額の理由について御説明を願いたいと思います。

以上、答弁によりまして再質問をさせていただきます。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 神田議員の御質問にお答えをいたします。

まず、一般会計補正予算歳入についてでございますが、第一点は特別交付税の問題でございますが、交付額は一億七千二百七十万余円、交付時期は十二月、三月の二回でございます。

特別交付税の予算化につきましては、施政方針で申し上げましたとおり、当初予算成立後の職員給与の改定を含む追加財政需要に対応する財源として留保しておりましたが、御案内のとおり五十七年度補正予算のうち一般財源といたしましてはその大部分が五十六年度からの繰越金であり、また職員の給与改定が見送りとなったことなどにより補正財源として予算計上することがなかったことによるものでございます。したがって、三月補正後の歳入予算額の確保ができた場合には、五十八年度への繰り越しとなります。

次に、寄附金の内容についてであります。今回の補正をお願いいたしましたものうち、九百万円は船形小学校校舎及び船形

幼稚園舎改築に際しましての東京都からの寄附金でございます。

また、このほか奨学資金につきましては、角田正彦氏ほか三十四名の方々から現在まで二百七十余円の寄附金があり、決算見込みとしましては二百二十七万円程度見込まれますので、当初見込額との差を計上いたしました。

次に、歳出でございますが、まず職員の給与でございます。人事院勧告凍結による凍結相当分は幾らかという御質問でございますが、五十七年度の人事院勧告につきましては、去る八月、一般職の給与を四・五八%引き上げるよう勧告がありました。政府は諸般の事情を考慮し、人事院勧告の凍結を決定しております。

館山市の場合、この人事院勧告を完全実施した場合の所要額は約一億五百万円となります。

次に、第二点の調整手当の支給状況でございますが、県下二十八市中二十市支給されており、未支給地は館山市を含めて七市となっております。

次に、民生費の御質問でございますが、生活保護受給者の動向についての御質問でございますけれども、保護率は現在八・六五パーミリとなっております。過去三年間をみますと、昭和五十五年度末におきまして三百四十二世帯、五百十五人、昭和五十六年度末は三百四十三世帯、五百十八人と微増しておりますが、昭和五十七年度二月末におきましては三百二十四世帯、四百八十六人と減少しております。

なお、六十歳以上の生活保護者は、現在百十七世帯、百二十九人となっております。

次に、衛生費、保全公社補助金に関連しての御質問でございます。

すが、まず決算見込みでございますが、収入が事業収益一億九千六百二十八万円、事業外収益五十万六千円、特別収益四十六万五千円の合わせて一億九千七百二十五万円、支出は事業費用二億三千四百七十七万九千円、事業外費用六十三万二千円、特別損失百十二万三千円、合わせて二億三千七百五十三万四千円で、差し引き四千二十八万三千円の不足を生ずる見込みでございます。

次に、くみ取り量と投入量の比較についての御質問でございますが、昭和五十七年四月より五十八年一月末日までの十カ月間ではくみ取り量千八百八万五千二百八十リットルに対し、投入量千七百七十四万四千三百三十リットルでございます。一カ月二十五日として一日当たりになりますと、くみ取り量七万二千三百四十一リットル、投入量七万九百七十七リットルとなります。

率にいたしまして一・九％の差でございます。

次に、諸支出金、土地開発基金についての御質問でございますが、現在の積立額は二億三千八百四十一万余円で、今回これに加えて一億四千万円を積み立てようとするものであります。

目的といたしましては、土地開発基金条例に定められておりますが、各事業を円滑に執行するために、必要な土地について先行取得をする場合の資金でございます。具体的には、今後十分予想される国道百二十七号バイパス、都市計画事業などに要する公共用地を取得する際の代替用地、あるいは緊急を要する公共用地の取得が主なものでございます。

次に、財政調整基金費の繰替運用の問題でございますが、この件につきましては、財政調整基金条例でその運用を認めておりますが、今回減額補正をお願いいたしました財政調整基金費は、五

十六年度におきましてコミニティ施設用地を購入したことなどにより、同年度の後半から出納整理期間において歳計現金が不足いたしましたので繰替運用を行いました。

この結果、財政調整基金へ歳計現金からの繰り戻しが五十七年五月になりましたので、財政調整基金において一年定期預金の満期日が五十七年度から五十八年度になったことに伴いまして、運用利子が減額となったものでございます。

なお、本年度十一月交付の普通交付税の交付時期が一カ月余遅れましたが、歳計現金不足はありませんでしたので、現在のところ繰替運用はしておりません。

次に、普通財産購入費でございますが、この件につきましては総務部長より御答弁申し上げます。

次に、国保会計の御質問でございますが、臨時財政調整交付金を減額する理由でございますが、臨時財政調整交付金は老人医療無料化の負担増を補なう財政調整分と高額療養費分に対しての国庫補助金でございますが、今回減額補正するものは主に老人医療の財政調整分でございます。

五十七年度の当初予算算定時は、平年どおりに算出して九千四百八十九万九千円を計上いたしました。しかし、その後老人保健法十月一日施行を前提に減額するように国の指示がまいりました。同法施行が二月一日に延びたのでございますが、厚生省予算の財政調整分は復活を認められませんでした。

臨時財政調整交付金の交付額決定は例年三月末でございますが、このような経過を踏まえて三千二百五十一万円の減額補正を計上いたしましたのでございます。

以上、答弁を終わります。

○総務部長（鶴岡卓樹君） 普通財産取得についてお答えいたします。

目的を持った場合は、おっしゃるよう行政財産としまして購入目的別に計上はされております。この場合普通財産ですから、特に都市計画等で使いたい、ただし、そのほかに公共事業等で必要性があった場合には充当もしたいということで、公共事業そのものの代替用地も考えまして、「等」としまして普通財産として購入してございます。

○一番（神田守隆君） おおむね説明を受けてこれ以上の質疑は打ち切るんですけれども、一、二点再質問いたしたいと思えます。

一つは、職員の給与の問題で人事院勧告凍結というような事態、なかなか職員の給与の改善という問題も大変厳しい環境の中にあるのかというふうに、そのこと自体は市の置かれている条件も理解をするわけでありますが、しかし、現在調整手当の支給問題を見ると、県内二十一市にまで支給の状態というものがあるとするれば、当館山市においてこれまで再三論議をされてきたところでありまして、この問題について館山市としての市長のお考え、支給についてのお考え、どういうふうに現時点であるのかお聞かせを願いたいと思います。

それから、くみ取り量のチェックの問題ですが、おおむね総量的には一・九割というような誤差の範囲、二割を超えないということで職員が大変正確に、一生懸命努力された結果があるんだらうと思うんですが、しかし、個々の家庭で見ると、なかなか

いろいろなでこぼこもあるというふうに思うんです。そういうような中でくみ取り量と投入量とのチェックというような時点から見た場合に、月単位で調べることができるとか、また車で何号車についてというふうにチェックができるのかとか、現在どういうところまでそうした量のチェックができるというふうにお考えなのか。一応ほぼ一年の総額のなチェックということとはわかったわけですけれども、このへんについていかがお考えなのか。

以上、御質問いたします。

○市長（半澤良一君） 調整手当につきましては、従来もいろいろ検討してまいりましたが、人事院勧告も凍結というようなきわめて厳しい財政状況でございますので、現在のところ調整手当を支給することを考えておりません。

○民生部長（鈴木 力君） くみ取り量と投入量との差の問題でございますが、これにつきましては、たとえば一戸当たりの平均一回当たりのくみ取り量が現在約百五十八リットルということでございまして、その中での差というものは約三リットル程度、こういうことでございます。

なお、一台当たりにつきまして、二トン車——千八百リットル入るバキュームカーでございますが、これにつきましては一台当たりの差というものは三十四リッター程度である、こういうことでございます。

これにつきましては、毎月くみ取り量も電算で打ち出されておりますし、また衛生センターにおきます投入量というものは毎月トータルをとっておりますので、月々のチェックというものはできるわけでございます。

○議長（林 豊君） 以上で一番議員の質疑を終わります。

以上で通告者による質疑を終わりますが、通告をしない議員で御質疑ありませんか。

（二九番安西益男君登壇）

○二九番（安西益男君） 二、三お伺いします。

一般会計補正予算の歳出でございますが、二六ページ、これは先ほどありましたけれども、民生費の生活保護費のうちの二十節これは医療扶助費ということで四千五百二十六万五千円という減額、これはかなり大きな減額でございますして、この内容について該当者がどのくらい減ったのかという点についてひとつお聞かせください。

それから、二七ページのと畜場の二十節二十万のと畜場特別会計繰出金についてお伺いします。

それから、二八ページの衛生費のうちの環境保全公社の補助金でございますが、四千五百二十六万一千円、この内容についてお聞かせください。これは大変大きな額でございますして、これは今年度だけか、さらにまた引き続いてこの補助金は進めていくのかそういった点についてでございます。

それから、もう一点二九ページの農林水産業費の育成牧場費の二節、三節についての内容についてお聞かせいただきます。

以上でございます。

○民生部長（鈴木 力君） お尋ねの第一点でございますが、今回の生活保護費の減額につきましては、医療扶助におきまして人員の減、なお、一件当たり医療費の当初見込んだ単価よりも低かったということでございます。

まず、当初予算にみえました平均単価というものは八万四千円を一件当たりみたわけでございますが、この決算の見込みにおきましては七万四千六百円、こういうことでございまして、この単価がまず減額になったということでございます。

それから、人員におきましては、月平均当初予算におきまして三百三十名をみえましたけれども、決算見込みにおきましては三百二十一名に減となっておりますわけでございます。

こういうものが四千五百二十六万五千円という生活保護の中の医療扶助の減となった理由でございます。

それから、と畜場会計に対します二十万円の繰出金につきましては、これはやはり歳入面におきますと殺頭数というものが当初見込んだものより決算見込みにおいて減少したことによりましてやはり財源というものが不足いたしましたので、これを補うために市の一般会計の方から二十万を繰り出しをお願いする、こういうことでございます。

それから、環境保全公社におきます補助金でございますが、先ほど市長の方から御答弁ございましたように、内容的にはやはり収入におきまして、事業収益——これはくみ取り収益でございますが、これが減少しておるわけでございます。それから、なお支出におきましてはやはり職員のベースアップが予算におきましては二・五％程度見込んであったわけでございますが、これが支出がないということ。

それから、そのほか環境保全公社の現在の土地につきましては、五十七年度に解体、整地しまして地主さんにお返しする、こういう予定で予算を組んであったわけでございますが、いろんな関係

で五十八年度に実施しよう、こういうようなことによりましての支出の面での減というようなことでございまして、最終的に四十二万八千三百円というものが当期の欠損額、こういうことになりましてそれに前年度四百九十八万二千元というものが欠損金で赤字であつたわけでございますが、赤字のまま繰り越しておりますので、これを補てんする意味でこれを加えて四千五百二十六万五千円を補助金として支出しよう、こういうことでございます。

それから、特にくみ取り料金の問題が大きな問題でございまして、当初三カ年間の収支のバランスをとるためにトリットル当たり百二十円というものを収集原価から推しまして計算したわけでございますが、最終的にはトリットル当たり九十円というような結果になりました、その三十円の差額というものが事業収益に不足を生ずる、こういうことでございます。

○経済部長（山田俊康君） 続きまして育成牧場の二節、三節——給料、職員手当の關係でございしますが、当初予定いたしました職員数は前年度育成牧場正規職員四人でございましたが、異動等の關係で三人になりました、その差は臨時職員に振りかえて運営いたしました次第でございします。

なお、当然他の費目と同様に、今回の人事院勧告によります給与改定分の減額も合わせて実施してある数字でございします。

○二九番（安西益男君） 医療扶助費について、総体的に年間何名ぐらいで、減額された人数は何名か。何名ぐらいか人員の減った分をお聞かせください。減るということ、内容的に問題はないと思いますけれども、あまり多いんで、人数等極端に減っているんではないかということでございます。

それから、と畜場の件ですけれども、赤字運営ということで大分前から問題になっておりますが、建物も相当古いし、耐用年数もかなり過ぎてゐるわけでございますが、今後の運営についてどんなように——引き続きやっていくのか、あるいは他に方法はあるのか、そういうことについての計画はなされておるのか、それをひとつお聞かせいただきたいと思ひます。

それから、保全公社の料金についてでございますが、投入料についてかなり大変な面があるということのようでございますが、これは毎年同じことを繰り返していくのか、あるいは補助でずつとやっていくのかという、ひとつ突っ込んだ面の考えをお聞かせ願ひたいと思ひます。

それと、育成牧場の件ですが、この運営状況はどうかということ。この運営の面では市の運営で引き続きやっていくのかどうかという点も、ひとつ計画があればお聞かせいただきたいと思ひます。

○民生部長（鈴木 力君） 生活保護費の中の医療扶助でございしますが、これにつきましては年間を通して大体九十名程度当初予算で見込んだ人数より減になった状況でございします。

それから、と畜場の今後の運営という問題でございしますが、現在非常に重要な課題というようなことで衛生課の方でもいろいろ検討を続けておるわけでございまして、これにつきましてはこれからいろんな角度から十分検討、協議をしていきたい、このように考えておる次第でございします。

それから、なお保全公社に対する助成の問題でございしますが、これにつきましても非常に大きな問題でございしますので、今後の

検討課題として十二分研究、検討をしていきたい、このように考
えておるわけでございます。

ただ、あくまでも手数料の改定をしない限りにおいては、毎年
度相当額というものを助成をしていかなければならない、このよ
うに考えておる次第でございます。

○経済部長（山田俊康君） 育成牧場の関係でございますが、より
効率的な運営というよりなことで、現在検討を進めております。

○二九番（安西益男君） 九十名減少というところでございますけれ
ども、例年はこんな大きな開きはないというふうに認識しておる
わけでございますが、特にこのように大きく減少した理由があっ
たら御説明願います。

と畜場の件につきましては、いろいろと御検討されておるよう
でございますが、建物も先ほど申し上げましたようにもう耐えら
れないと言っても過言ではない状況にありますので、今後の運営
について引き続き御検討されたいというふうに考えるわけでござ
います。どうか早急にどうするかということについては計画を進
めていただきたい、このように考えます。

保全公社への補助金、今後の課題ということでございますけれ
ども、このままですと毎年同じような額が支出されていくという
ことでございますけれども、この点も十分検討願いたいというふ
うに思います。

それから、育成牧場は当分市でこのまま運営していくというこ
との方針は固まっておるんでしょうか。ちょっと他にということ
も聞いたことがありますので、引き続き市でやっていくのかど
うか、見通しはあるのかどうか、これをひとつ合わせてお伺い

たしたいと思います。

○経済部長（山田俊康君） 育成牧場の管理につきましては、今後
も市が管理、経営をしていきたいというふうに考えております。
ただ手法として、実態は民間委託ということで、委託経営を考
えて合理化を図ってまいりたいというふうに考えております。

○民生部長（鈴木 力君） 医療扶助の特に人員の減になった理由
でございますけれども、過去の推移を見ますと、いろいろ年度に
よって増減というものがありますが、五十七年度におきましては
対象者がなぜ減ったかということにつきましてはこれはいろいろ
関係があるかと思えますけれども、入院した患者というものが
減ってきた、このように考えております。

○議長（林 豊君） 以上で二九番議員の質疑を終わります。
他に御質疑はございませんか。——御質疑なしと認めます。
よって質疑を終結いたします。

委員会付託

○議長（林 豊君） ただいま議題となっております議案第十九号
乃至議案第二十三号昭和五十七年度館山市一般会計及び特別会計
補正予算は、お手元に配付してあります議案付託表のとおりそれ
ぞれ所管の常任委員会に付託をいたします。

請願書の上程

○議長（林 豊君） 日程第三、請願第一号米空母ミッドウェー艦
載機の訓練基地化に反対する意見書の提出を求める請願書を議題
といたします。

請願書の朗読を願います。

(書記朗読)

○議長(林 豊君) 朗読は終わりました。

請願書の趣旨説明

○議長(林 豊君) 次に、請願趣旨について紹介議員の説明を求めます。

一番議員神田守隆君。御登壇願います。

(一番議員神田守隆君登壇)

○一番(神田守隆君) ミッドウェー艦載機の訓練基地化問題は、すでに昨年の十二月の定例議会、また去る十日の当議会において私が取り上げ、市長の所信をただした問題であります。

報道によりますと、近く最新鋭原子力空母カールビンソンも日本寄港が予定されているということがあります。こうした中で艦載機の訓練基地の重要度は近年ますます重要になっております。

こうした中で、昨年の日米安保協議の場で、厚木代替基地を関東地区に設置することを日本政府がアメリカ政府に対し約束し、五十八年度政府予算にはそのための調査費が計上されました。

こうした動きの中で、調査対象とされた基地周辺自治体では、たとえば下総周辺では白井町、鎌ヶ谷市、柏市、我孫子市など市町長をはじめ議会としても反対の決議をするなどしております。

さて、十日の私の質問の中で、市民の安全を守るとして半澤市長も反対の態度を表明をしたところであります。

この艦載機の訓練基地に館山基地がなることについて、館山市民の圧倒的多数がこぞって反対であるということを信じます。

当議会においても請願の趣旨の御理解をいただき、満場の御賛同を賜りたいと紹介するものであります。

○議長(林 豊君) 以上で説明は終わりました。

委員会付託

○議長(林 豊君) 本請願書は総務委員会に付託いたします。

延 会 午後零時五分延会

○議長(林 豊君) お諮りをいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。——御異議なしと認めます。よって本日はこれにて延会することに決しました。

次会は明三月十五日午前十時開会とし、その議事は昭和五十八年度各会計予算の審議といたします。

○本日の会議に付した事件

一、議案第十一号乃至議案第二十三号

二、請願第一号